



『初夏の風物詩』

副校長：武藤 浩之

- 校庭に楽器の音が響き始めたのは4月の2週目でした。今年は例年より、かなり早めのスタート。超大型連休があったからです。つまり練習時間を考えてのことでした。先を見越して計画的に取り組む。これもまた、鼓笛を通して子ども達が学んでいることです。それはさておき「選曲」「演奏」「行進」「服装」の四つのこだわり。今年も聖母小らしい鼓笛パレード、そして、運動会での鼓笛ドリルを見せてくれるはずです。
- 運動会の練習も、早めの準備になりました。校庭で子ども達が走る姿、あるいは整列や行進の様子を目にするようになったのは、鼓笛の練習と同様、4月の2週目です。昨年は学院創立80周年ということで「幼小合同運動会」を行ないました。今年は「小学校の運動会」に戻ります。二度の延期という記憶が甦ってきましたが、とにかく天気恵まれ、子ども達が存分に躍動できる運動会になることを願うばかりです。
- 昨日、5月6日は立夏でした。毎年、連休前後に見ごろになるのは、小学校業務用駐車場の御衣黄(ギョウカ)です。その花と、校庭の葉桜と、鼓笛と運動会。本校における「初夏の風物詩」の時季になりました。

今年度の「桜の会幼小部」各種委員

\*敬称略  
\* ( ) は児童、園児名

I 幼小部三役

三役	委員長	HP掲載のため氏名は削除しています。
	副委員長	
	書記	

II 小学校桜の会〈クラス委員・ベルマーク委員・環境委員〉

	クラス委員	ベルマーク委員	環境委員
1年1組	HP掲載のため氏名は削除しています。		
2年1組			
3年1組			
4年1組			
5年1組			
6年1組			

お知らせ・お願い

オメデトウ ゴザイマス

- 3月3日(日)、3年1組担任 原田 聖士 教諭に第二子が誕生しました。おめでとうございます。男の子です。

お誘い〜マリア祭〜 (宗教科)

日時：5月29日(水)  
8:45~9:30

場所：小学校講堂  
\*出席される方は「連絡帳」を通して担任にご連絡下さい。  
\*べ切は5月24日(金)です。

児童会：前期 各委員会委員長

- 《 学級：委員長 》
- 《 図書：委員長 》
- 《 奉仕：委員長 》
- 《 放送：委員長 》
- 《 保健：委員長 》
- 《 整美：委員長 》

HP掲載のため氏名は削除しています。

授業料等納付金の引き落としについて (事務室)

- 5月分の「授業料」口座引き落としは、5月10日(金)になります。
- 4月分が引き落としにならなかった方は、2ヶ月分まとめて口座引き落としになります。前日までに通帳残高の確認をして下さい。
- 「1学期の諸経費集金」は5月24日(金)に引き落としになります。金額は、5月18日(土)に配付のプリントで確認して下さい。

制服の移行期間 (生活指導部)

- 5月13日(月)~6月15日(土)まで「制服の移行期間」になります。
- 6月の衣替えを迎えるまでは、その日の天候に合わせて夏服を着用することができます。
- \*5月末まで制服は冬服用。校章のつけ忘れのないように。

運動会「スローガン」

• 学級委員会を中心に、運動会の「スローガン」を決めました。今年は…、『最後まで 君の本気が 一等賞』です。

華道クラブ・和太鼓クラブ

• 希望者減により「華道クラブ」が休部になりました。池坊の星先生は18年間、ボランティアでご指導されました。感謝状により御礼の意としました。新規開設は「和太鼓クラブ」です。

ミニコラムNo.42 『桜の聖母学院で過ごす子ども達』

年中 ひなぎく組 担任：高橋 詩帆

- 初めて集団生活をした日のことを覚えているでしょうか。親と離れて登園する子ども達は、多少なりとも不安を抱えています。でも、先生や友達に「いいね。すてきだね。」「あなたのことが大好きだよ。」と認められ、受け入れられることによって、子ども達は「自分は自分でよいのだ」と安心し、満足感を味わうことができます。
- 小さい頃に、誰かに受け入れてもらった経験や認めてもらった経験が、自己肯定感を育みます。そして、幼稚園生活でのそうした経験が、小学校入学後、人間関係を構築するときや自分で判断して行動するとき、前向きな気持ちで挑戦することに繋がるのだと思います。
- 私は、桜の聖母学院幼稚園で過ごした思い出の中で、小学生と競馬場へ遠足に出かけた日のことを鮮明に覚えています。手をつないで一緒に歩いたり、お弁当と一緒に食べたりするときに、小学生のお姉さんはいつも優しく声を掛けてくださいました。このように、受け入れてもらった経験があったからこそ、相手を尊重することの大切さを感じたように思います。
- 桜の聖母学院で過ごす子ども達は、友達や先生方との関わりを通して、受け入れられたり、認められたりする経験を重ねていきます。だからこそ、自分の存在に価値を見出すとともに、相手を大切にすることができるのではないかと思います。